

# 「地方創生カレッジ in 熊本」 ワークショップ等の成果のポイント

## 1. 地域課題・テーマ

テーマ:「地域力の底上げ」

## 2. 現状と問題点

- ・災害は地域を加速度的に衰退させ、施設の老朽化、地域力の疲弊が一度に襲ってくる。その際、地域社会の強さと被害の大きさは反比例することも多く、普段から集落や地域社会レベルの視点での地域づくりを進めていくことが重要である。
- ・実施地である熊本市や周辺市町村では、平成28年4月に発生した熊本地震や令和2年7月の豪雨など度重なる災害に見舞われている。昨今の異常気象を踏まえると再び災害が発生する可能性があるため、防災や減災につながる地域コミュニティの関係性強化が求められている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、地域の活動拠点の利用が制限されたり、広域での連携が制限される問題が生じている。

## 3. 目指すべき方向性・将来像と実現に向けた具体的施策

- ・住民が地域の価値を再発見し、地域住民同士でつながりを持つことで、シビックプライドの醸成し「内発性」を生み出すことが重要である。その素地をもとに新しいコミュニティの形成やローカルビジネスにつなげることを目指す。
- ・交流人口や関係人口による地域コミュニティ維持・発展を図ることも重要だが、地盤となる狭域での連携関係や相互扶助関係が弱いと、その効果が十分に発揮されない可能性がある。また、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う移動制限があることも踏まえると、足元の局面においては、まずは狭域での視点に重点を置く。
- ・全国で人口減少が続く中で、過疎地域等では地域の担い手が不足している。このため、地域を担うリーダーを養成するとともに、若年層との「つながり」の場を創出する。
- ・熊本市や周辺市町村以外の視点を取り入れて、災害に強いまちづくりにつなげていく。

# 「地方創生カレッジ in 熊本」 ワークショップ等の成果のポイント

## 4. 今回のワークショップやディスカッションを通じて得た気づき(官民連携、人材交流の効果等)

### (1) 基礎体力の底上げが災害時にも重要であることの確認

参加者は、普段からの地域づくり活動によって培われた地域力が災害時にも重要であることを学んだ。

具体的には、岡崎氏から地域づくりが盛んな地域では、住民同士の信頼関係が構築されていたことから、熊本地震でも住民が救助活動に参画することで死者を0にしたという事例や、本田氏から「ネットワーク」「フットワーク」「チームワーク」による重要性とその活動が災害時に活かされた経験などが紹介された。

活動開始の経緯や活動内容は異なっているが、普段からネットワークを形成し、ノウハウを共有していくことの重要性を参加者が認識できる内容であった。

### (2) 基礎体力の底上げをするために各者が取り組んでいることの共有

参加者は、2日目にグループワークを実施して地域課題を共有し、課題解決に向けたこれからの地域づくり活動について意見交換を行った。具体的には、地域を知るためにイベントに参加して情報を収集することや、人と人との繋がりを育むために積極的に交流を図ること、行政と地域住民がつながる場を創出することが重要である、といった意見が多くあった。

地域課題の共有については、普段から取り組んでいる地域づくり活動に関する課題のほか、将来の地域づくり活動に対する課題が挙げられ、地域づくり活動に取り組んでいる参加者もそうではない参加者も、地域力向上につながる将来の課題解決に向けて意見交換を行うことで、具体的な課題解決策が見えるものとなった。

### (3) 参加者同士の連携を深めることが、NGO版対口支援に結び付くことの確認

参加者は、2日間の講義やグループワークを通して、参加者同士の連携を深めることが NGO 版対口支援(一対一のカウンターパート方式による支援)につながることを学んだ。

講義や事例紹介で学んだことに加え、グループワークにおいて地域課題を共有し課題解決方法について意見交換を行う中で、個人やそれぞれのコミュニティだけで課題を抱え込むのではなく、地域やコミュニティを超えた連携を行うことが重要であることに気づいたことで、参加者同士で今後につながる連携・交流が生まれた。

具体的には、スクーリングに参加した熊本市役所の職員から、災害時や地域課題の共有を目的とした参加者同士のプロジェクトを作りたいといった意見があったほか、今回のグループワークで得られた経験を SNS で発信して、仲間づくりにつなげる動きも見られた。

### (4) 現地とオンラインによるハイブリッド型研修による遠隔交流

「地方創生」は年齢や職業、居住地を問わず、主体的に地域に向き合って課題解決に取り組む「人」が集まることで実現可能となる。こうしたことから、本講座では、熊本市やその近隣地域だけでなく、様々な地域や属性で、同じ課題や志を持つ方を募集した。その結果、新型コロナウイルス感染拡大の最中であっても、定員を上回る74名の参加があった。

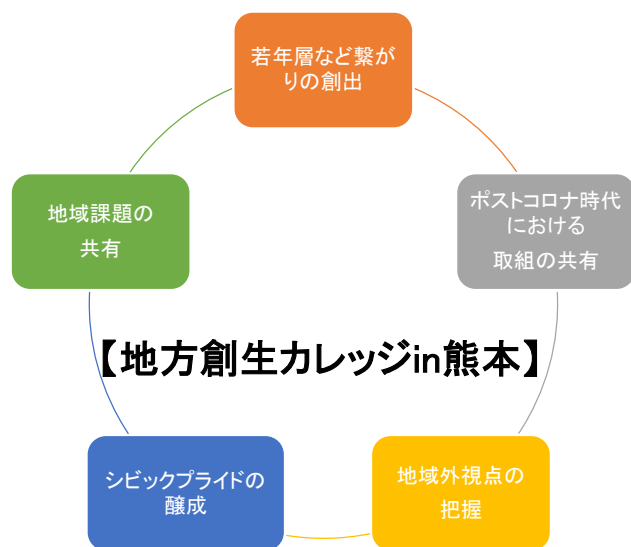
# 「地方創生カレッジ in 熊本」 ワークショップ等の成果のポイント

## 5. 成果スキーム図

### 【現状・地域課題】

- ・現代における地域課題は地域社会に起因することが多く、そうした課題を解決していくためには、集落や地域社会レベルの視点での地域づくりが重要である。また、災害は地域を加速度的に衰退させ、施設の老朽化、地域力の疲弊が一度に襲ってくる。その際、地域社会の強さと被害の大きさは反比例することも多い。
- ・特に、実施地である熊本市や周辺市町村では平成28年に発生した熊本地震や令和2年7月の豪雨など度重なる災害に見舞われており、昨今の異常気象を踏まえると地域コミュニティの強化や防災や減災に繋がる関係性の構築が求められる。また、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う移動制限などに伴い地域活動の場が制限されたり、広域での連携が制限される問題も起きている。

### 【官民連携講座による効果】



### 多様な主体・地域との連携関係の構築・強化



### ■今後の展開

地域住民のシビックプライドを醸成するとともに「できるしこ（できることはできる範囲ですということ熊本のことば）」を大切に内発性を醸成し、地域活動につなげる。

地域住民が様々な主体と連携し、情報を共有することで、地域を担うリーダーの養成につなげる。また、若者が地域コミュニティに参画していく機会を創出する。

地域住民がほかの地域と連携することで災害時などの NGO 版対口支援につなげる。

### 【全体の成果】

地域力の底上げを図り、地域住民の内発性を醸成するとともに交流人口や関係人口の創出につなげることで、地域コミュニティの担い手を確保し、災害などの有事の際の相互協力や持続的なまちづくりにつながる一歩となった。